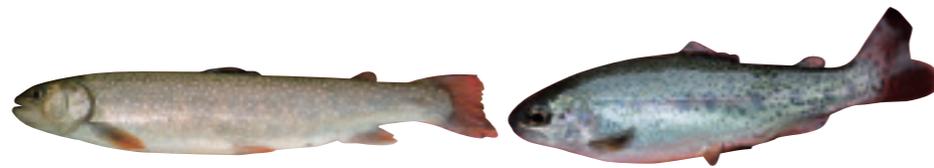


# 農林水産物図鑑

## 清流が残る多摩地域に 美しい川魚が泳ぐ （水産物）



**ヤマメ** 別名「溪流の女王」とよばれ、日本とその周辺にだけに生息している。乱獲によって一時期は幻の魚となったが、東京都が全国に先駆けて養殖に成功。川魚特有の臭みがなく、とても美味。  
旬の時期/通年(天然物は3~10月)



**イワナ** 西多摩  
川魚としてはもっとも上流部にいる魚として知られ、奥多摩町の日原川、峰谷川などの溪流に釣り場がある。  
旬の時期/3~11月

**ニジマス** 西多摩  
明治時代に原産地の北アメリカから青梅市に移植された。養殖も盛んで、山間部の重要な産業になっている。塩焼きが一般的だが、刺身で味わうこともできる。  
旬の時期/通年(天然物は3~12月)

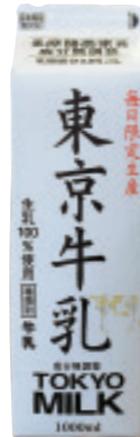
**農林水産コラム 2** 溪流の女王たちを守り育てる 奥多摩さかな養殖センター

奥多摩町にある「奥多摩さかな養殖センター」ではヤマメやニジマス、イワナ、奥多摩やまめの種苗(卵や稚魚)を生産し、漁協へ配付するとともに、魚の病気診断・治療、病気に強い川魚の研究などを行っている。通常、ヤマメは生後2年で産卵すると死んでしまっていたが、当センターは平成10年に成熟を抑制(産卵させない)することで2年目以降も生き残り、大型に成長する「奥多摩やまめ」を開発。燻製やムニエル、刺身などで1年中おいしく食べられるようになった。

奥多摩町海沢(写真)と入川に養殖池がある  
奥多摩やまめは通常の2倍の大きさ!

## （畜産物）

絶品! 東京産の肉&乳製品



**鶏卵** 鶏卵、うこっけい卵  
北多摩 西多摩 南多摩  
希少な烏骨鶏を改良し、通常は年間50~80個しか産まない卵を、200個ほどにまで高めたもの。地場産の新鮮鶏卵、うこっけい卵は人気がある。直売所を中心に販売されている。

**豚肉 TOKYO X**  
●とうきょうえつくす  
西多摩 南多摩  
北京黒豚、パークシャー種、デュロック種という高品質の3種を掛け合わせ、よいところを受け継いで誕生。良質な脂肪分を十分に備え、肉質は柔らかくジュシー。

**牛肉 黒毛和牛**  
(秋川牛・東京ビーフ)  
全エリア  
都内各地で育てられた黒毛和牛。肉質はやわらかく、きめ細やかで美しい艶がある。

**牛乳 牛乳**  
全エリア  
都内各地の酪農家から新鮮乳を都内の工場に出荷。このうち、東京牛乳は限定生産され、東京都地域特産品認証食品となっている。

**鶏肉 東京しゃも**  
北多摩 西多摩  
闘鶏用だったことから、胸などの筋肉が発達し味もよいしゃもと、他品種を交配して誕生。一般的なブロイラーに比べ、低脂肪・高たんぱく。調理しても肉汁の損失が少なく、旨味が逃げないのが特徴。



**ハチミツ** 全エリア  
主にあきる野市や小金井市などで養蜂が行われているが、近年は都心の銀座や江東区などでも養蜂に取り組みようになってきた。ハチミツを使ったオリジナル商品の開発も進んでいる。

生活に自然の美を取り入れて!

## （花き・植木）



**シクラメン** 北多摩 西多摩 南多摩  
東京の鉢花を代表する存在で、瑞穂町など都内各地で栽培が盛ん。東京都農林総合研究センターでは、平成23年までに新しいタイプの3品種を開発し、品種登録している。いずれも香りがよく、夏の暑さに強いのが特徴だ。旬の時期/11-12月



**桜草(プリムラ)** 23区  
生産農家は江戸川区に多い。かつて荒川沿いに桜草が群生していた北区や荒川区では、保存会が大切に育てており、北区の浮間ヶ原桜草園場では春に「浮間さくら草祭り」も開催される。旬の時期/4月頃



**ポインセチア** 北多摩  
鮮やかな赤い葉が特徴。クリスマスシーズンには欠かせないことから「クリスマスフラワー」ともよばれている。花の色は赤のほか、白やピンクもある。旬の時期/11-12月



**花壇苗** 全エリア  
東村山市や東久留米市で栽培が盛ん。秋から春にかけてはパンジーやビオラ、夏から秋はサルビアやニチニチソウ、マリーゴールドなどの苗を扱っている。旬の時期/通年



**植木・庭木** 北多摩 西多摩  
江戸時代から江戸に全国の植木が集まったため、昔も今も東京は植木生産をリードする地として名を馳せている。和洋を問わず庭を華やかに演出してくれるカエデは、特に人気が高い。旬の時期/通年

**農林水産コラム 3** 江戸の一大ブームから続く 東京の花き・植木栽培と夏の風物詩

江戸時代、大名屋敷が江戸に設置されたことで、庭園文化が発展。さらに植木鉢が普及するようになると、盆栽はもちろん、大名から庶民にまで園芸ブームが広がった。江戸時代後半には、生活に困窮した武士が内職として植木や草花を栽培していたといわれる。朝顔は御徒町の下級武士が多く栽培していたが、江戸幕府衰退に伴い、入谷の植木屋が作るようになり、その美しさが評判となった。その歴史を今に伝えるべく、昭和25年(1950)に入谷朝顔市が復活。今では都内各地で朝顔市(→P16)が開催され、夏の風物詩となっている。

古くから習慣のあった「春の七草」は、宮中行事や幕府行事として行われていた  
戦中に一度廃れたが、戦後に復活した入谷朝顔まつり写真提供:台東区

街のあちこちで木の温もりに癒される

## 多摩産材 体感スポット

多摩産材(正式名称:東京の木多摩産材)とは、多摩地域で生育・生産された木材を指し、多摩産材認証協議会により産地証明されたもの。ここではその多摩産材に触れられるスポットをご紹介します!

23区 台東区  
20 上野の森 PARK SIDE CAFE  
●うえのもりばーくさいどかふえ  
☎03-5815-8251

多摩産材を使用した建物と、上野の森の景色に癒されるスポット。旬の野菜を使ったメニューが豊富に揃い、季節のフルーツを使ったデザートも好評だ。  
①台東区上野公園8-4 ②JR上野駅(JK30-JY 05-JU02-JU01)から徒歩3分 ③10~21時(日曜、祝日は9時~) ④無休 ⑤なし



上野の森に多摩産材を用いた建物がかっこよく合う  
インテリアでもリラックス空間を演出

23区 新宿区  
21 東京おもちゃ美術館  
●とうきょうおもちゃびじゅつかん  
☎03-5367-9601

木材で作られた質のよいおもちゃが揃う美術館で、子どもたちは楽しく遊び、大人は木材の温もりや香りに癒されると評判。子どもたちが直に座っておもちゃで遊べる床などには多摩産材の杉が使われている。  
①新宿区四谷4-20 四谷ひろば内 ②東京メトロ四谷三丁目駅(M11)から徒歩7分 ③入館800円 ④10~16時 ⑤木曜(2・9月に特別休館日あり) ⑥なし



多摩産材が使用された「赤ちゃん木育広場」

23区 品川区  
22 東急池上線 戸越銀座駅  
●とうきゅういけがみせんとこしぎんざえき  
☎03-3781-0817(旗の台駅)

「木になるリニューアル」と名付け、ホームの屋根や内装、ベンチなどに多摩産材を多用。都内の鉄道施設としては初めての試みとして注目されている。  
①品川区平塚2-16-1 ②東急戸越銀座駅(IK03) ③5時~翌1時 ④無休 ⑤なし



駅舎のリニューアル工事は、地元の人々との話し合いや、あきる野市の森林への見学ツアーなど、地域住民に多摩産材の魅力を理解してもらうことから始められた